

1. 7 環境配慮行動啓発活動

1. 7. 1 京都大学環境ファクトシート エコ〜 るど京大 2024 報告

エコ〜るど京大は、様々な学部・研究科の学生と教職員の有志が、環境問題や SDGs をテーマに活動するネットワークである。「持続可能なキャンパス（サステナブルキャンパス）」の実現や、SDGs を「自分ごと化・みんなごと化」して考えることを目指しており、大学生や研究者だけでなく、社会人や小中高校生、留学生、さらには地域住民も巻き込みながら、様々な企画を実施している。

2024 年度においては、それ以前の年度の取り組みを継続しつつ、一般の方を対象としたワークショップへの参加が増えた年であった。以下では、エコ〜るど京大が今年度行った取り組みを紹介する。

【イベントへの出展】

イオン桂川および洛北阪急スクエアで行われたイベントに出展し、「端切れとクレヨンでオリジナルエコバッグをつくろう」をテーマに、白いエコバッグに端切れのリボンや布用クレヨンで自由にデザインしてもらうワークショップを実施した。親子連れを中心に多くの方が参加し、楽しみながら環境への関心を高める機会となった。洛北阪急スクエアでの開催では、京都工芸繊維大学の環境活動サークル「あーす」と協力し、大学間のつながりを深めるとともに、活動の幅を広げるきっかけとなった。また、本イベントは地域情報誌「らくはん通信」にも掲載され、多くの方に活動を知っていただく機会となった。さらに、京都大学北部祭典では「箸づくりワークショップ」と「エコバッグワークショップ」を実施した。箸づくりでは、北山杉の木材をかんなどで削り、完成した箸をその場で持ち帰ってもらう体験を提供した。



エコバッグづくりワークショップのようす

【オープンラボ】

2024 年 6 月 3 日～14 日に京都大学西部会館ルネ 1F の京都大学生協同組合ショップルネの一角にて「オープンラボ」を開催した。

「オープンラボ」は、普段の学業では触れる機会ない学術の話題を専門家から直接聞くことのできる機会を、京都大学の学生を対象に提供することを趣旨とするものである。次の日程で計 11 人の研究者にご滞在頂けた（所属は当時のもの）：

- | | | |
|-------|------|----------------------|
| 安藤悠太 | 特定助教 | （地球環境学堂） |
| 磯部洋明 | 准教授 | （京都市立芸術大学美術学部） |
| 陰山 洋 | 教授 | （iCeMS 連携教授兼任、工学研究科） |
| 西郷甲矢人 | 教授 | （長浜バイオ大学） |
| 真常仁志 | 准教授 | （地球環境学堂） |
| 高山佳奈子 | 教授 | （法学研究科） |
| 角山雄一 | 准教授 | （環境安全保健機構放射線管理部門） |
| 東島沙弥佳 | 特定助教 | （白眉センター（総合博物館）） |
| 宮野公樹 | 准教授 | （学際融合教育研究推進センター） |
| 矢野順也 | 准教授 | （環境安全保健機構環境管理部門） |
| 山敷庸亮 | 教授 | （大学院総合生存学館） |

【ことす OPEN デー】

京都市右京区北部に位置する京北地域は、京都市中心部から車で 1 時間程度の場所にあり、北山杉の名産地として知られる京都を代表する里山である。この京北地域で、SDGs の社会実装を目指す産学公連携の団体「京都超 SDGs コンソーシアム」を中心とした地域づくりが

2021 年度に本格始動し、エコ〜るど京大は関連学生団体としてこれに参画した。活動の中心となっているのは、元京北第一小学校を活用した「京都里山 SDGs ラボ（ことす）」という施設である。「ことす」とは、SDGs 達成に向けて”ことをおこす”、”ことをなす”という意味を込めてつけられた愛称である。ことすは、地域の住民・学校・事業者や、企業や個人の利用者が、里山の自然の中のゆとりある空間を、快適なビジネス拠点として活用できる場であり、SDGs・持続可能性を達成・実現する中山間地域モデル構築を目指した様々な社会実装を試み、発信する場である。また、汚れたプラスチックは洗って干してから捨てるなど徹底したごみ分別を行う他、生ごみはコンポストやバイオガスプラントで処理をする、アップサイクルによって生まれ変わった商品の製作や見学が出来るなど、SDGs について学び、実践できる場という役割も果たしている。

ことすで定期的に行われるのが「ことす OPEN デー」である。エコ〜るど京大のメンバーも、スタッフとして継続的にこのイベントに携わっている。「ことす OPEN デー」では、食の生産から消費についての持続可能性を考えたエコクッキングや、クリーンアップ活動やプラスチックになりきるゲーム体験などごみゼロについて学ぶ活動など、さまざまなプログラムが開かれた。ある日の OPEN デーでは、マイボトルダンスで体を動かして一日をスタートし、その後のごみ拾いでは河原に捨てられたテレビや炭、吸い殻など、身近に潜む不法投棄の現実に触れた。続くプラスチックのワークショップでは、子どもたちが「プラの気持ちゲーム」を通してプラスチックの行く先を考え、大人と意見を交わしながら学びを深めた。午後には、匂い袋づくりやつまみ細工、木工などのアップサイクル体験を行い、それぞれの創意工夫を生かして作品を完成させた。活動を通して、楽しみながら環境について考える機会を提供できた一日となった。



写真は、ゲームを通してごみゼロについて学ぶようす

【地球環境ユースサミット in Kyoto】

「地球環境ユースサミット 2024 in Kyoto」は、2023 年 9 月から 2024 年 8 月までの年間プログラムである。2024 年度では、世界各国の中高生が複数のグループに分かれて英語で議論を交わして実践へと進行する「本講座」に突入した。高校生と大学生のメンターからなる数名のグループにわかれ、各グループは SDGs に関連するトピックについて独自にテーマを立てその解決についての議論を行った。2 月から 8 月までのあいだに 2 回の中間報告会を行い、各班の進捗状況の共有、そして他のグループを交えたクリティカルシンキングを行い、議論を深めた。



これらの集大成として、2024 年 8 月 8 日～10 日の 3 日間、京都府宮津市において「京都・宮津サミット」を開催した。初日は天橋立ビューランドや智恩寺を訪れ、地元漁業者の協力で地曳網を体験し、宮津産の海産物を使ったバーベキューで親睦を深めた。2 日目はまず、砂浜のクリーンアップで約 1500 個のごみを回収した後、それぞれのテーマについてポスター発表で互いに意見交

換をした。午後は5つのコースに分かれて実地研修を行った。棚田や藤織りを通して里山文化に触れたほか、海洋高校でマイクロプラスチックの調査や英語交流、けた網漁での海底ごみ調査、企業協力による素材調査などを実施した。夜は山下晃正京都府参与による講話を受けた。また、現地研修プログラムでの学びを共有することができた。最終日は英語動画やリーフレット作成を通して発信力を磨いた。多様な背景を持つユースが交流し、実地体験を通じて環境課題への理解と行動の意欲を深めた3日間となった。



「地球環境ユースサミット 2025 in Kyoto」ではけいはんな学研都市で開催されるけいはんなサミットでの発表を目標とした。2月から3月に行われた導入講座では、環境問題について気軽に学ぶための手段としての環境かるたの作成を、英語でのグループワークを通して行った。

【2024 年度版環境早見表（新入生向けリーフレット）】

環境早見表とは、エコ〜るど京大が作成し、毎年4月に新入生に配布しているリーフレットである。環境やSDGsに関する企画記事や大学でのごみ分別情報などを掲載しており、環境問題に対して自ら行動するきっかけとしてもらうことを目的としている。

2024 年度は企画記事として、京大！バイオスクープとコラボし、京大構内で見られる生き物を地図上に示した「京都大学 SDGs 実践マップ」を作成した。生き物情報の他にも、学内のウォーターサーバーの位置や、学内でできる環境配慮行動も地図上に掲載し、身近なことから実践を呼びかけている。

なお、このリーフレットは、エコ〜るど京大のイベント等の際にも配布されており、新入生のみならず多くの方々にご覧いただくことができた。

【京大！バイオスクープ】

2023 年度に始動した本活動は、環境問題が取り沙汰される現代社会において、日常生活で触れることのできる生き物を紹介し、自然環境を身近に感じてもらうことで環境意識を高めることを目的としている。2024 年度は秋の生き物である「モクセイ」や「イチヨウ」を中心に、記事の更新を続けている。

プロジェクト「京大！バイオスクープ」



【京大！バイオスクープ file 38】 陸貝（カタツムリとかナメタジとか）【前編：陸貝の身体】

文責・島田草太朗 複雑な生態系を少しでも理解し、さまざまな自然を徹底的に究明したい京大！バイオスクープ。今回のご依頼はこちら「カタツムリはどうやって歩いているの？」 陸貝 陸生の軟体動物（貝類；Molluscs）のこと。[…]

学び 京大！バイオスクープ

🕒 2024.11.05



【京大！バイオスクープ file 37】 10月の木 モクセイ

文責・清水 複雑な生態系を少しでも理解し、さまざまな自然を徹底的に究明したい京大！バイオスクープ。今回のご依頼はこちら「キンモクセイとギンモクセイって何が違うの？」 モクセイ 学名Osmanthus fragrans モ […]

学び 京大！バイオスクープ

🕒 2024.10.19

1. 7. 2 エコ宣言ウェブサイトの運用報告

大学構成員の環境配慮行動のきっかけとすることを目的に「京都大学環境エネルギー情報サイト」を2009年度より開設している。近年は参加型企画「エコ〜るど京大」等を通じたSDGsに関する環境配慮行動啓発にウイ

ングを広げ啓発活動が続けている。2024年度のウェブサイト更新履歴は表1のとおりである。今年度の更新回数は計20回となり、毎月2回程度更新することができた。

表1 エコ宣言ウェブサイト 令和6年度の更新履歴（令和7年3月31日現在）

更新日	コンテンツ	記事タイトル / 更新概要
2024.4.3	2024年新入生企画、新入生向け企画	【新歓情報】エコ〜るど京大、2024年の新歓イベントについてご紹介します！
2024.4.10	－	「世界グルメを制覇！エコクッキング」参加者募集！
2024.5.18	－	【6/3(月)～6/14(金)@ルネ1F】オープンラボを開催します！！
2024.5.31	－	【イベント出展】オリジナルエコバッグづくり体験 @イオン桂川
2024.7.16	京大！バイオスクープ	【拡散希望：緊急クラウドファンディング！】日本産オオサンショウウオを守れ！～基礎研究の振興から保全まで～
2024.7.30	京北、イベント報告	【ことす OPEN デー】4/27・5/25 里山 SDGs コース・ごみゼロコース実施報告！
2024.8.13	－	【イベント紹介】Green Blue Education Forum 2024 参加者募集中
2024.8.19	－	【イベント出展】オリジナルエコバッグづくり体験 @洛北阪急スクエア
2024.10.3	－	【イベント】ローカルSDGs ユースネットワーク拡大大作戦～地域でSDGsに取り組む～
2024.10.19	京大！バイオスクープ	【京大！バイオスクープ file 37】10月の木 モクセイ
2024.11.5	京大！バイオスクープ	【京大！バイオスクープ file 38】陸貝（カタツムリとかナメクジとか）【前編：陸貝の身体】
2024.11.13	京大！バイオスクープ	【京大！バイオスクープ file39】11月の木 イチョウ
2024.11.19	京大！バイオスクープ	北部祭展に出展します！
2024.12.8	京大！バイオスクープ	【京大！バイオスクープ file40】クモ ジョロウグモ
2024.12.17	京大！バイオスクープ	【京大！バイオスクープ file41】陸貝（カタツムリとかナメクジとか）【後編：陸貝の行動】
2024.12.17	京大！バイオスクープ	【京大！バイオスクープ】陸貝（カタツムリとかナメクジとか）【概要版】
2024.12.31	京大！バイオスクープ	【京大！バイオスクープ file42】12月の木 トウネズミモチ
2025.2.15	京都大学プラ・イド革命	【3月末まで】小型家電を回収します！
2025.2.20	京大！バイオスクープ	【京大！バイオスクープ file43】コケ
2025.3.5	京大！バイオスクープ	【京大！バイオスクープ file44】3月の木 ツバキ

1. 7. 3 学内外への情報共有・情報発信 <第42回大学等環境安全協議会総会・研修発表会>

開催日時：2024年7月18日（木）～19日（金）

開催場所：新潟大学図書館ライブラリーホール
ならびにオンライン

主催：大学等環境安全協議会

共催：新潟大学

参加人数：オンサイト 98 名、オンライン 69 名

新潟大学図書館ならびにオンライン形式で第42回大学等環境安全協議会総会・研修発表会が開催された。新潟大学災害・復興科学研究所ト部厚志所長・教授から「2024年能登半島地震による新潟市域の液状化被害」と題した特別講演があった。そのほか、特別企画「大学等における化学物質の管理責任者」（辻佳子先生ほか）や、プロジェクト紹介「アスベスト簡易変更分析法による大学等のバックヤード建材実地調査とセルフチェック人材の育成」（愛教大榊原 洋子先生）など、大学の環境管理・安全衛生管理に関する発表等があり、参加者と意見交換を行った。

<第40回大学等環境安全協議会技術分科会>

開催日時：2024年11月27日（水）～28日（木）

※11月26日（火）シンポジウム「大学等教育研究機関における化学物質取扱いリスク」

開催場所：九州大学医学部百年講堂
ならびにオンライン

主催：大学等環境安全協議会

共催：九州大学

参加人数：オンサイト 114 名、オンライン 49 名

当部門からの発表：

矢野順也（京都大学）：実験廃棄物を含む大学の廃プラスチックのライフサイクルアセスメント、大学等教育研究機関における化学物質取扱いリスクシンポジウム

九州大学医学部百年講堂ならびにオンライン形式で第40回大学等環境安全協議会技術分科会が開催された。技術分科会前日には、トップダウンプロジェクトのシンポジウム「大学等教育研究機関における化学物質取扱いリスク」が開催され、矢野順也准教授から京都大学のプ

ラスチック廃棄物の排出実態調査やその結果を活用したライフサイクルアセスメント事例について発表があった。また、技術分科会では特別講演は藤川茂紀教授（九州大学カーボンニュートラルエネルギー国際研究所）から「CO₂分離・回収・利活用について」、田尾 幸一朗氏（福岡市環境局脱炭素社会推進部）から「脱炭素社会実現に向けた福岡市の取組み」の2件の講演があった。そのほか、実務者連絡会企画プログラム「大学における廃棄物管理」など、大学の環境管理・安全衛生管理に関する発表等があり、参加者と意見交換を行った。

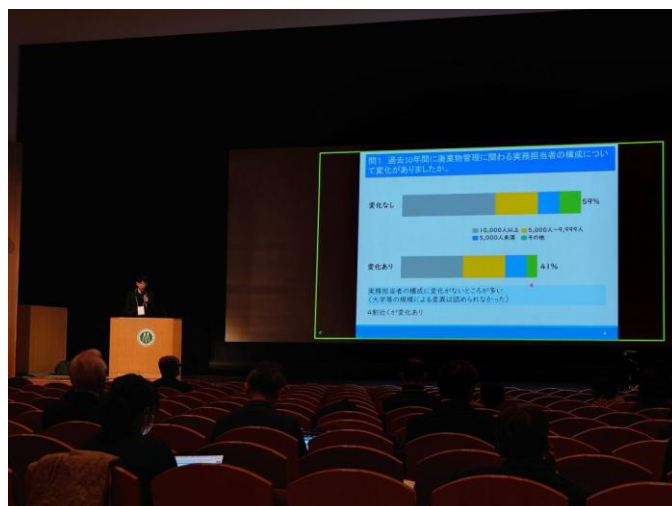


写真 第40回技術分科会会場の様子